

6. 一般行政職の級別職員数の状況(平成17年4月1日現在)

区 分	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	8級
標準的な職務内容	主 事	主 事	主 事	主 査	係 長 主 査	課長補佐 係 長	課 長 副 課 長	部 長 課 長
職員数(人)	2	14	38	22	79	65	43	17
構成比(%)	0.7	5.0	13.5	7.9	28.2	23.2	15.4	6.1

※標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職名です。

7. 特別職、教育長、議員の報酬等の状況

		市 長	助 役	教育長	議 長	副議長	議 員
給料・報酬 (月額)	条例による額	870,000円	700,000円	650,000円	430,000円	340,000円	310,000円
	当面の措置額	783,000円	630,000円	585,000円	条例による額と同じ		
期 末 手 当	<平成17年度支給割合> 計 4.35月分 (6月期= 2.10月分、12月期= 2.25月分)						

8. 部門別職員数の状況(平成17年4月1日)

部 門	職員数(人)
一 般 行 政 部 門	286
特 別 行 政 部 門	107
公営企業等会計部門	63
合 計	456

9. ラスパイレス指数

年 度	養父市指数
17年度	92.7

※ラスパイレス指数は、国家公務員(行政職)の給与水準を100とした場合の地方公務員の給与水準を表す指数です。

八鹿病院ニュース (お問い合わせとお知らせ)

■お問い合わせ／公立八鹿病院(☎662-5555)

4月からの 診療体制について

但馬地方では病院に勤務する医師が減少しており、病院は今までの診療体制を維持することが困難な状況となっております。

この病院の医師不足は、特に地方でその影響が強く出ており、今や全国的に大きな問題となっております。この状況の主な原因は、①医師の絶対的不足、②医師の偏在(都市部に集中)、③開業する医師の増加、④平成16年度からスタートした医師卒業臨床研修制度により、医師が大学に残らなくなり、大学からの医師を派遣できなくなった等です。

八鹿病院も他の病院と同様に、主に医師確保を大学に依存してまいりましたが、このような事情により一部の診療科で医師の派遣が得られなくなり、本年4月から脳神経内科、小児科、耳鼻咽喉科(耳鼻咽喉科はすでに1月から)が医師1人体制となり、今までと同様の医療を行うことが困難となります。

脳神経内科は、脳血管障害(脳出血・脑梗塞)の治療やそれに伴う機能障害へのリハビリ医療、神経難病、老人保健施設や入所者管理など、そして耳鼻咽喉科では、喉や頸部、耳鼻など、いずれも幅広い領域の医療を実施していますが、これらの業務の部分的縮小を迫られています。中でも小児科は、一般の小児医療(救急が多い)の他に、乳幼児検診、学校検診、予防接種などの多くの業務があり、これらを1人の医師が担当することはできません。

現在、但馬の医師不足については、それぞれの病院がお互いに協力し合って地域医療を守っていく方法を検討中ですが、その結果が出るにはもう少し時間がかかると思います。

八鹿病院の診療体制を、一日も早くよい状態に戻せるよう努力する所存ですので、地域住民の方々には大変ご迷惑をおかけしますが、ご理解をいただきますようお願いいたします。

今後の診療体制については、随時ケーブルテレビや市広報紙等でお知らせします。